

「現地報告」「新サークル」

■「現地報告」白米千枚田の田植えを応援しました。

一般財団法人日本グラウンドワーク協会

当協会と学生サークル「石川県立大学白米千枚田学生応援隊」と一緒に、白米千枚田（石川県輪島市：世界農業遺産：棚田1,004枚）の田植えを応援しました。当日は輪島市役所が募集した田植えボランティア100名が全国から集まりました。

今回、田植えを行うのは、復旧した棚田250枚です。輪島市役所及び白米千枚田愛耕会の依頼により、学生応援隊の学生は、苗配り、ボランティア誘導、交通整理など運営スタッフとして活動しました。

マスコミもたくさん来ており、学生応援隊の学生もサークル入部の動機や白米千枚田の感想などについてインタビューを受けていました。白米千枚田は、今年度、無農薬栽培にチャレンジしており、田の草取りが大変になるのではと心配しています。輪島市役所及び白米千枚田愛耕会は、学生応援隊に草取り作業などの応援をととても期待しています。

協会も作業予定日の学生応援隊の参加学生の確保、白米千枚田までの移動、輪島市役所及び白米千枚田愛耕会との作業内容、日程の調整などを担います。また、北陸農政局からも学生応援隊の活動を応援するというコメントをいただいています。昼食は、復旧したばかりの「道の駅白米千枚田ポケットパーク」の食堂で、昨年復旧した棚田で収穫されたお米で、被災された地元の方が作られたおにぎりを、学生応援隊のみなさんでおいしくいただきました。



■「新サークル」

山口大学に学生サークル「棚田・地域おこし学生応援隊」を設立しました。

長門市役所（山口県）及びNPO法人ゆや棚田景観保存会から「東後畑棚田」（つなぐ棚田遺産：農林水産省認定）の保全活動に若者の応援が欲しいという依頼があり、山口大学の学生に呼びかけ、学生サークル「棚田・地域おこし学生応援隊」を設立しました。部員は17名です。活動内容は、①棚田での農作業、②イベントの運営、③棚田保全や地域に関しての情報発信の応援です。

山口大学の教員も過疎化地域の活性化のきっかけになると評価しており、学生の活動を積極的に支援するとしています。



「学生寮に所属すること」

信州大学農学部3年 宮下裕毅

大学生には、様々な住まいの形態がある。一人暮らしをする人、シェアハウスをする人、実家が近ければ実家から通う人もいるだろう。そんな中で、私は「学生寮」を選択している。私が所属する学生寮は、信州大学農学部キャンパスの中にある「中原寮」という自治寮である。自治寮とは、学生自身が運営や管理に関わる学生寮のことである。寮の規則や行事の企画、掃除や食事提供などを寮生が主体となって行うものである。自治寮としては、京都大学の吉田寮や北海道の恵迪寮などが有名であり、私が所属する「中原寮」もそれらの自治寮の一つである。

はじめ私は、実家に住み通学することを考えていた。私の出身地は長野県伊那市であり、信州大学農学部のある長野県南箕輪村とは隣り合った場所に位置しているため、通うことに全く問題はない。しかし、私は中原寮に入ることに決めた。それは、他では味わうことができない学生寮という形態と、特色に魅力を感じたためである。

寮での生活を通して、集団生活には、良い面と悪い面があると感じている。私が感じる良い面は、多くのつながりや、多くの人と常に生活する点にある。寮には様々な人がおり、学科・学年も様々である。一例を出すとすれば、GPSを用いず、コンパスだけで旅をする人や、ピザ窯を自作する人もいる。もちろんサークル等でもこのようなつながりを持つことは可能だが、共に生活をするとなれば、それ以上のつながりができると感じている。また、私が村づくり応援隊に入ったきっかけも、この寮にある。ある日、1人の先輩に連れられ、ある畑に行った。そこが村づくり応援隊の活動場所であり、定期的に畑に行くようになり、イベントに参加する内に正式な隊員として活動するようになった。以上のようなつながりを得ることができる点は、非常に魅力的であると感じている。

対して、悪い面は、複数の人がいることによる共同生活の難しさがある。もちろん、多人数いれば、生活感や価値観、文化の違いから衝突は発生する。プライベート空間が少ないという点も、寮への懸念点としてよく耳にする。また、寮自治という寮の特性も要因する。寮自治による時間的拘束や、他人とのトラブルなどは発生してしまう。しかし、これらの問題について話し合い、解決することは、私の価値観を変え、問題対処の経験として今後の社会において非常に役立つと考えている。

私は、学生寮に所属することで、他では味わうことができない体験をすることができた。上で述べたように、学生寮での生活はその寮の特性や規則から、寮での生活に合っている人、合わない人が生れてしまうものだと感じている。私にとっては現在の生活は、寮であることの恩恵の方が遥かに大きい。集団の中で生活を共にすることは、サークルなどの集団に属することとも異なると感じられる。また、自治のため寮生間で会議をして話し合い、管理を行うという行動は、自分たちで寮を作っているという感覚は非常に刺激的である。みなさんの学校にも学生寮があるだろう。見学が可能であれば一度見に行してほしい。そこでしか見ることができない、自分の知らない住まいの形があるだろう。

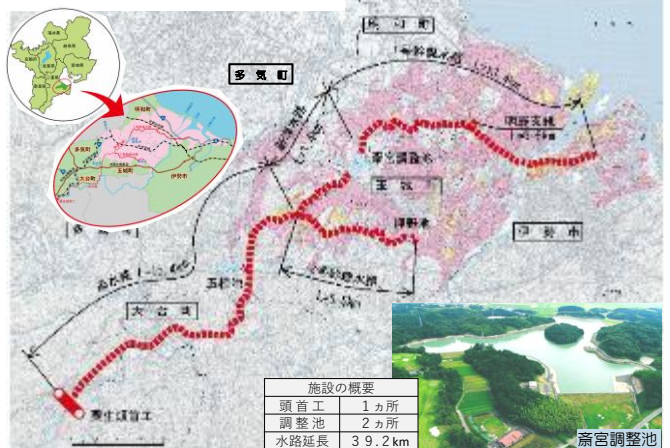
行こうよ！水土里の旅！

□ 宮川用水(三重県伊勢市・多気町・明和町・大台町・玉城町)

全国有数の多雨地帯「大台ヶ原」を水源とする宮川の兩岸、伊勢市ほか4町に広がる約4,680haをかんがいする宮川用水。

宮川の河床は、周辺の土地よりも低く、川の水を利用することが困難で、農業は常に水との戦いでしたが、三重県において「宮川総合開発計画」が立案され、これを契機とし農林省によりS33～S41 大規模なかんがい施設を整備しましたこれが宮川用水です。

現在は、末端圃場まで管水路化され、配水管理の合理化が図られています。



斎宮(遠の朝廷)

斎宮は、天皇に代わって伊勢神宮に奉仕した斎王(さいおう)の御所や斎王をお世話する役所があった場所で、飛鳥時代から約660年間、斎王が斎宮に居住し、斎王の宮殿と斎宮寮(役所、住居等)からなり、斎宮の遺跡は約137haの広大な土地に広がり、天照大神に奉仕し、当時「遠の朝廷」と称されるほど重要な場所でした。斎王は天皇の代替わりごとに皇族の未婚の女性で、都から伊勢に派遣され神に仕える皇女ため、王朝文学にも度々登場し、モデルとなったこともあります。斎宮遺跡は、三重県多気郡明和町に位置し「斎宮跡」として国の史跡、日本遺産にも指定され、今も発掘調査が行われています。



園内に再現された斎宮
(1/10模型)



体験館では十二単試着や
貝合わせもできます

奉納花火大会

宮川では、花火シーズンの幕開けを飾る「伊勢神宮奉納全国花火大会」が、毎年7月中旬の土曜日に開催されます。

シーズンの幕開けの大会となり、全国各地から選抜された花火師たちが神宮に奉納し、研鑽の成果を神都伊勢の夜空に打ち上げます。

色々な新作の花火の共演は、県内外から多くの方が集まり、夜空に上がる見事な花火を見学に訪れます。



昨年の大会で打上げられた花火です
今年は7月19日(土)の予定です

お伊勢さんへと続く餅

桑名から伊勢へと向かう道に「餅街道」という別名があることをご存知ですか？ 参拝客の道中の腹を満たすため、街道沿いの茶店で様々なお餅が供されたことからの呼び名だそうです。

お伊勢さんでお餅とくれば赤福、と言いたところですが、今回はへんば餅をご紹介します。うすく、やわらかなお餅にほんのりついた焼き目は香ばしく、包まれたさらりとしたこしあんは素朴ながら上品に甘く、疲れた旅人の舌を喜ばせたことも頷けます。

伊勢市内でしか販売のないお菓子です、お近くにお寄りの際にはぜひ、店内にてご賞味あれ。



【情報提供】

建設コンサルタント
株式会社 葵エンジニアリング

農業土木技術一プロの仕事

農業土木に関連する企業・団体が日々の業務で取り組んでいる技術情報を紹介する「農業土木技術一プロの仕事」。今回は、台風の被害で被災した農業用水の水管橋復旧への取り組みについての事例をご紹介します。

1. 背景

令和元年房総半島台風(台風第15号)は、台風の接近・通過に伴い関東地方南部を中心に猛烈な風、猛烈な雨となりました。特に、風については千葉市では最大瞬間風速57.5メートル(観測史上1位)となるなど、記録的な暴風となりました。

この台風により、一級河川を横断する農業用水の吊り橋形式の水管橋が被災し、水田へ用水を供給するために迅速な機能復旧が求められました。

【被災した水管橋諸元】

吊り橋形式(橋長 $L=37.50\text{m}$)

用水管 $\phi 600$ 計画流量 $Q=0.204\text{m}^3/\text{s}$

2. 仮復旧(令和元年)

被災した水管橋は114haもの水田へ用水を供給するため、田植えが始まる翌年3月までに仮復旧する必要がありました。そのため、地元の理解と協力を得て、極めて短期間の工期で付近の道路橋歩道に仮送水管を設置し、仮復旧を行いました。

3. 本復旧(令和2年)

翌年度には、水管橋を本格復旧するための工事が行われました。工事は、用水路の水がとまる10月から翌年3月中旬までの約5ヶ月という短い期間に行う必要がありました。

このため、地組みした一体の上部工を200t吊りクレーンを用いて架設するなど、工期短縮を目的とした工夫や提案を行って短期間に工事を終わらせることができました。

4. 現在

水管橋工事の竣工後に仮通水試験を経て本格通水を開始し、災害にも強い生まれかわった水管橋により、地元の農業発展に寄与しています。



写真1.被災した水管橋



写真2.既存道路橋を利用して仮廻し管を設置



写真3. 200t吊りクレーンによる架設状況



写真4.完成後の水管橋全体写真

「農業農村を応援する大学生サークル」の活動紹介

■「琉球大学おきなわ食・農研究会」の活動紹介

おきなわ食・農研究会は、沖縄の生活や食を支えてきた農業への理解を深めることを目的としたサークルです。活動内容は、沖縄の伝統的な農作物の栽培や農家さんでの農業体験で、代表的な活動には、毎年2月ごろに行うサトウキビ刈り体験(昨年度は雨天中止)があります。

コロナ禍以前は、活発に活動していたらしいですが、ここ数年は部員や予算が不足していたため、昨年度は全く活動できませんでした。そこで、この度、他の農業系サークル(琉球大学作物園芸サークル)と統合することにいたしました！まだ、農業体験やボランティア等の活動は行えていませんが、今年度は活発に活動できるようにがんばります！

雑草駆除作業

春休み期間中に伸びてしまった雑草の除草作業をしました。圃場内の余っていた土地も使えるように除草中です。暖かくなってきた、雑草の伸びる速度が速くなっているうえに、沖縄は5月中旬から梅雨入りで活動できない日も増えてきているため、非常に大変です。



伝統的な農作物栽培

沖縄の伝統的な農作物を栽培して琉球料理をつくることが目標の1つとなっているため、フーチバー・ジュシーに使うヨモギとジーマーミー豆腐に使う落花生の苗などを植えました。本当は、ゴーヤー・チャンプルーに使うゴーヤーやナーベラーン・ブシーに使うヘチマも育てたかったですが、沖縄県からセグロウリ・ミバエまん延防止対策としてウリ科作物は栽培を控える呼びかけが出ているため、残念ですが、しばらくはウリ科作物を育てないことにいたしました。



農業農村を応援する大学生サークル」の活動状況(Instagram)

□日本グラウンドワーク協会公式Instagramにアップしています。

<https://www.instagram.com/groundworkassociationjp/>

[発行・お問合せ先等] 一般財団法人日本グラウンドワーク協会 中里

Tel:03-6459-0324

Mail:nakazato@groundwork.or.jp

グラウンドワークとは「協働で地域をよりよくする」という意味です。当協会は、「中間支援団体」として①地域活性化、②環境保全、③福祉、④棚田保全等社会的課題解決を目的に、若者(大学生等)参加及び男女共同参画による協働を主軸にした、いわゆる「日本型グラウンドワーク」を推進しています。